

ヘッダ・ガーブレル

1891年、ミュンヘンで初演。研究者の夫テスマンとの関係に息苦ししさを感じている妻ヘッダは、退屈な日々と、身近な生気に溢れた人たちに苛立ちを覚える。テスマンの研究者としてのライバルでありヘッダの元恋人レーヴォルクの死、ヘッダの古い友人テアとテスマンの研究上の意気投合、レーヴォルクの死に関する判事の疑惑が交錯し、嫉妬と羨望と絶望が高まる中でヘッダは、自身の行動で自らを追い込み自殺してしまう。

ヘンリック・イプセン

ノルウェー出身の劇作家・詩人。「近代演劇の父」と呼ばれる演劇史上の巨人。シェイクスピア、チェーホフと並び、現在でも世界中で盛んに上演されている。19世紀当時一般的だった勧善懲惡の物語や歴史上の偉人が登場する大作から離れ、個人の生活や現実の社会課題などを題材に戯曲を執筆。



第七劇場

1999年、演出家・鳴海康平を中心に設立。主に既成戯曲を上演し、言葉の物語のみに頼らず舞台美術や俳優の身体とともに多層的に作用する空間的なドラマが評価される。国内外のフェスティバルなどに招待され、これまで国内25都市、海外5ヶ国11都市（フランス・ドイツ・ポーランド・韓国・台湾）で作品を上演。代表・鳴海がポーラ美術振興財団在外研修員（フランス・2012年）として1年間滞在後、2013年に日仏協働作品『三人姉妹』を新国立劇場にて上演。2014年、東京から三重県津市美里町に拠点を移設し、倉庫を改装した新拠点 Théâtre de Belleville のレジデントカンパニーとなる。https://dainanagekijo.org



「三人姉妹」(2023) 撮影:松原豊

2024年

8月31日(土) 14:00開演 | 9月1日(日) 14:00開演

※受付開始は開演の45分前、開場は開演の30分前

MIE CENTER FOR THE ARTS
三重県総合文化センター 三重県文化会館 小ホール • 30th

三重県津市一身田上津部田1234

近鉄名古屋線・JR紀勢本線・伊勢鉄道「津駅」西口より徒歩約25分／伊勢自動車道「津IC」より車で約10分／「芸濃IC」より車で約15分

整理番号付き自由席 一般2,500円(一般当日3,000円)、22歳以下1,000円(前売・当日とも)

※未就学児入場不可 ※22歳以下チケットでご入場の際は、年齢の確認できる証明書のご提示をお願いいたします。

各回終演後に演出家によるトークセッションを予定

⌚ 9月1日の回は託児サービスを実施(要予約・有料) 公演2週間前までに申込(三重県文化会館 TEL059-233-1122)

英語プログラムあり(当日受付にて)

チケット取り扱い

三重県文化会館 チケットカウンター(窓口・電話)
Tel:059-233-1122(10:00~17:00／月曜または月祝翌平日休館)

三重県文化会館 WEBチケットサービス「エムズネット」

<https://p-ticket.jp/center-mie/>

第七劇場WEB(予約のみ) <https://dainanagekijo.org>

主催:三重県文化会館[指定管理者:(公財)三重県文化振興事業団]

共催:レディオキューブFM三重 製作:合同会社第七劇場 特別協力:名古屋芸術大学

助成:公益法団法人岡田文化財団

文化庁文化芸術振興費補助金
(劇場・音楽堂等機能強化推進事業(地域の中核劇場・音楽堂等活性化事業))

独立行政法人日本芸術文化振興会

舞台監督:北方こだち 照明プラン:島田雄峰(LST) 照明操作:前田遙音

音響:平岡希樹(有限会社 現場サイド) 衣装:小野花弥

フライヤー撮影:松原豊 フライヤーデザイン:橋本デザイン室

撮影協力:Bon Vivant(三重県伊勢市本町20-24)

6月29日(土)10:00チケット発売開始

彼女はなぜ原稿を燃やし、

銃の引き金に指をかけたのか——。

自分の生と自己についての実感を求めて、空虚の中で心を圧された女性「ヘッダ」。

生きている価値、妻であることやパートナーの意味や意義、

ひとりの人間として必要な承認をめぐる、生が自己を求める切実さを描く物語。